

日本の発言は新鮮だった —ハルハ河戦争70周年記念シンポに参加して—

「ハルハ河戦争70周年記念行事 歴史と現代」シンポジウムは、09年8月24～28日にモンゴル国防省などの主催で開催された。モンゴル、ソ連、中国（内モンゴル自治区）、米国、日本など5か国の戦史研究者約30人が参加。筆者は外務省国際会議場で2日間、発表と討議を聞き、交流した。

日本からは在野のハルハ河戦争（日本ではノモンハン事件）研究者2人が討議に参加した。岡崎久弥さんと辻田文雄さんで、09年5月に戦場跡で、モンゴル、中国と3か国共同調査した結果を発表した。

各国の発表者は、公文書や記録によって得た知見を述べ、軍事史家の立場で論じた。米国人は、日本人2人と同じように個人研究者として発言、コメントした。

ハルハ河戦争は、1939年、モンゴル・ソ連軍と、日本陸軍・満洲軍（当時）が交戦した。モンゴル・ソ連軍の司令官はソ連のジュコフ将軍で、戦勝記念日の8月26日、ウランバートルのジュコフ記念碑にロシア・メドベージェフ大統領が献花した。

国際シンポジウムでは日本以外の発言者は「日本が侵略者である」という史観に立ち、モンゴル国防研究所長らは、モンゴル人民共和国を守り、ソ連軍の参戦で日本・侵略軍に勝てたという軍事史観でハルハ河畔での戦争をみていた。

日本の2人の在野研究者は、戦後生まれ世代としてノモンハン事件に関心を持って、いく度かモンゴルに来ていた。岡崎さんは、5月の3か国共同調査の客観的なデータを映像とパワーポ



青木公（あおきひろし） 朝日新聞社在職中は社会部で国際問題も取材。豪、米特派員。モンゴル国訪問は初めてで、09年8月22日～9月9日まで滞在。JICAモンゴル・石田幸男所長が郵送してくれた『モンゴル通信』で国際シンポジウムがあるのを知った。首都周辺のほかザミンウーデやエルデネットを訪ねた。

ントで発表。

「GPSによる衛星写真で戦場跡を正確に割り出した。その結果、既発表の事実とは食い違う点もあった。これからの歴史検証に役立ててほしい」と戦争考古学の視点から約40分間発言、「日本ではノモンハン事件をよく知るものはほとんどいない。私のような若い世代は無関心だが、新しい科学技術で史実を明らかにして、メディアを通して、平和の大切さを広く伝えたい」と述べた。ひと呼吸おいて拍手が送られた。戦争考古学というのは耳新しい分野。モンゴルの恐竜発掘と同じように、戦場遺跡を科学的に検証することで新事実を見つけ、教訓を得るという手法だ。

岡崎さんらの共同調査は、朝日新聞やニューヨーク・タイムズに掲載された

と辻田さん制作のパワーポイントで発表された。2人の調査は、自営業のかたわらアマチュア研究者としての成果だけに、ユニークさと新鮮さがあった。モンゴルのメディアにより取材、放映された。通訳は立命館大に留学中のモンゴル女性で、日本の若いモンゴル研究者も傍聴していた。

モンゴル側コメントで、モンゴル国立教育大の歴史学科教員が、若い世代の視点で「日本とは戦火を交えたが、いまは花束を贈り合う関係である」と、1990年以降の両国関係を評価した。

日本人としては居心地よくないシンポジウムだったが、歴史認識の大切さが分かった。

寄稿：青木公（ジャーナリスト）

モンゴル人のなが—い時間感覚とやさしい眼差し

今回の民主党政権の誕生について、あるモンゴル人がブログにこんなふうを書いていました。「日本国民は民主党を選んだ以上、彼らを『4年後降ろす』つもりではなくて、彼らに協力して日本という国に明るい未来をもたらしてほしいのである（<http://zorigt.blogspot.com/2009/09/change.html>）」。日本人を顧るモンゴル人の視点が感じられておもしろいと思いました。

モンゴルで暮らしていると、モンゴル人の時間感覚が日本人のそれよりはるかに長く（長すぎる?!）イライラさせられることがあるでしょう。「イラち」などと揶揄される大阪出身の私にはこれが結構応えます。でも逆にモンゴル人からみれば、日本人の「ド」が付くほど短い時間感覚にヘキエキしているかも知れません。いや、モンゴル人のゆったりした感覚をもってすれば、日本人のせっかちな取りに足りないか。この違いを、日本の大相撲とモンゴル相撲の勝敗までの時間の差にたとえるのは検討がたいでしょうか。

10年も会っていなかったモンゴルの友人と再会した時、まるで昨日まで普通に会っていたかのようにその長い空白の時間がすぐにうまってしまう。そんな不思議な感覚にとらわれたことはないでしょうか。日本だと半年くらい連絡しないとそのまま関係が途絶えてしまうことも珍しくないでしょう（もちろんその人の人間関係にもよります）。

モンゴルには、大きな穴に落ちてしまったアメリカ人や中国人が助け合って生還するのに、モンゴル人はひとりずつ出ようとしてそれを他のみんなで引きずり下ろすのでいつまでも出られないという笑話があります。でもこの話を初めて聞いた時、私は単純に笑えませんでした。毎日ストレスまみれの暮らしをどうにかこなして生きている日本人が、少し変わったことをする人間がいると皆で徹底的にたたいてまるでうつつん晴らしでもしているかのように見えることがあるからです。

朝青龍の「仮病」疑惑が起こった時のマスコミのたたきぶりには閉口してしまいました（もちろん朝青龍にも落ち度はあります）。これに単純に荷担した一部の国民とモンゴルの温泉（温泉はゆっくりつかって楽しむものでしょう）まで朝青龍を追いかけ回したマスコミ人に「横綱の品格」をわかりやすいモンゴル語で説明してみてもいいと言ってやりたかった。自分はどうなのかなどとふり返る余裕はとっくの昔に捨て去ってしまったようです。

日本では民主党政権が生まれる前から「政権担当能力がないのではないか」「公約を守れないのではないか」などとせっかちな議論が始まっています。初めて政権を担当する民主党を自分たちが選んだのです。しばらくは見守り、そして育ててやるくらいの余裕をもてないものでしょうか。すこし前の日本人にはそれくらいのゆとりとやさしい心があったのではないかと思われて残念です。ブログの主には何だか痛いところをやさしくチクリと突かれた気がしました。パイラルラー。

モンゴル国をアジアで10位以内に — 世銀プロジェクト

世界銀行のビジネス経営調査チームはモンゴル国の投資環境の改善、民間企業の発展のため、モンゴル国の経済評価を2012年までにアジアで上位10位、世界中で上位30位以内に入る目標を立て、経営環境評価をするために来た。

同チームは8月27日から政府や民間企業の関係者と

会談、投資・ビジネス環境改善対策プロジェクトについて検討した。

その結果、政府が実施すべき作業計画案、勧告案を作成した。D.バトツル国務次官はその計画案や勧告案を見て、モンゴル国の民間企業、投資環境の改善に有意義があると強調し、政府が実施している他の対策

や計画に関連づけると語った。

現在、モンゴル国政府は国立機関や民間企業との関係を支援するため、数件のプロジェクトを実施中である。例えば、ザミンウーデのロジスティクス・センターを設立、税関サービスの一元化を導入している。

モンゴル銀行の為替レート（2009年9月10日）

円	15.28
米ドル	1413.48
ユーロ	2047.5
ルーブル	45.35
元	206.98
ウォン	1.15